

環太平洋
連携協定

TPP

こんにちは
渡辺ゆり子

2012年4月22日
-22号

発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子

<連絡先>
県議会議員 渡辺 ゆり子
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

主権が侵される問題

共産党主催のシンポで各界から指摘

日本共産党山形県委員会と同国会議連東北ブロック事務所は14日、TPP(環太平洋連携協定)の問題をテーマにしたシンポジウムを開催し、私はコーディネーターをつとめました。

山形県山形市長も参加し、紹介されました。また、吉村美栄子知事と、今田正正JA山形中央会長がスピーチをされました。最初に、TPPのモデルとされる韓米FTAについて現地調査した若手県議が主催する善正会長が特別報告をおこない、メトリックレポートを超えた、国家の主権が侵される重要問題だと、TPPの危険性に、ついで強調しました。

シンポジウムでは、共産党の高橋ちづ子衆院議員、山形県協の後藤秀司常務理事、至誠堂総合病院の伊藤英三副院長、山形県生協連の若本統夫会長理事が、それぞれTPPの問題について、会場からの質問に答えながら発言しました。

「参加反対の国会を」高橋ちづ子 衆議院議員



パネリストの方々とゆり子(左端)

批判、「食料主権と国内需要の地域発展を」と、共産党がめざしている政策だと説明したうえで、「TPP反対の世論を大きくするたかいを起こすこと、選挙で参加反対の国会をつくることだ。」

異主催のTPP説明会(3/26、山形市では政府から内閣官房の中川周・企画官が出席し説明しましたが、疑問や批判が相次いだと報じられています。

1月の衆院本会議における志位和夫委員長代表質問で、野田首相はTPPの交渉内容は4年間公表しないという決めにしていることを認めています。国民に説明責任も果たさないような交渉に参加し、主権を侵されるようなことは何としてもやめさせなければなりません。

政府説明に対し批判相次ぐ

日本共産党もその一翼を担って奮闘したいと決意を述べました。



消費増税抑ゆるすな 集会・デモ行進に参加

消費増税抑ゆるすな 集会・デモ行進に参加

私も参加しました(11日、山形市第二公園)。消費増税防止各界連と国民大運動実行委員会の共催。石川沙由、山形一区候補が連帯のあいさつをおこないました。小雨の降る夕方でしたが、集会後のデモ行進では、「消費増税増を許すな」のシュプレヒコールに沿って、手を振って、花を送る若い人たちの姿も見られました。

県議会の日程

(閉会中委員会)

25日(水) 各常任委員会
26日(木) 各特別委員会

ゆり子の視点

東日本大震災・山形避難者支援団体の意見交換会に参加しました(13日)。

「復興ボランティア支援センターや、アがた」が主催し、福島、新潟、札幌などの団体も含む多くのボランティア団体と、行政関係者も参加し、現状や課題について熱心に出し合っていました。その中で浮かび上がった

避難者支援 全国ネットの重要性

被災者を把握し、避難者に寄り添った支援が必要であることが強調されました。

避難されている方も、帰ることも含めて住みかえや転職・転入学など、課題として、持ち続けていきたいと思っています。

様々な対応そして選択に迫られる時期が来ます。全国どこにいても、地域の人に受け入れられ安心して生活できる支援が求められています。

ボランティア団体のネットワークを広くつなぐことが語られていて感動しました。自分自身、国や行政がやるべき避難者支援こそ、徹底的でもと進めるべきだとも感じました。